

病害虫発生予察情報

向こう1ヶ月(6月)の予報

平成24年度 予報第2号

東京都病害虫防除所

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

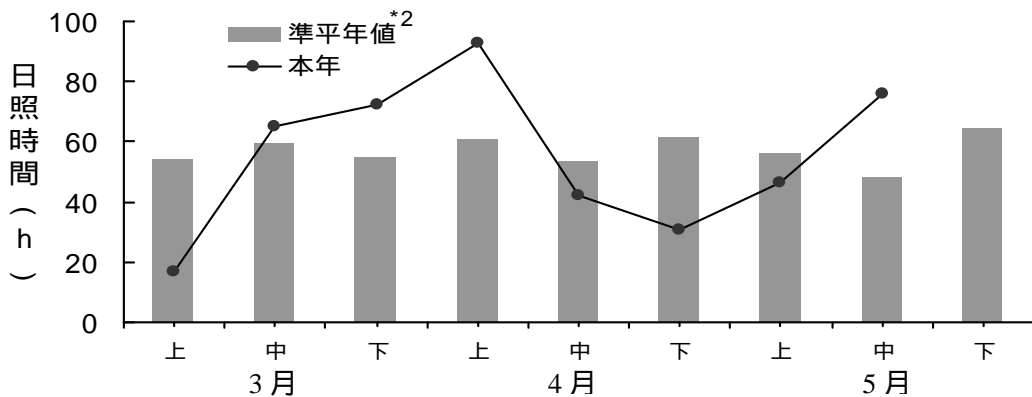
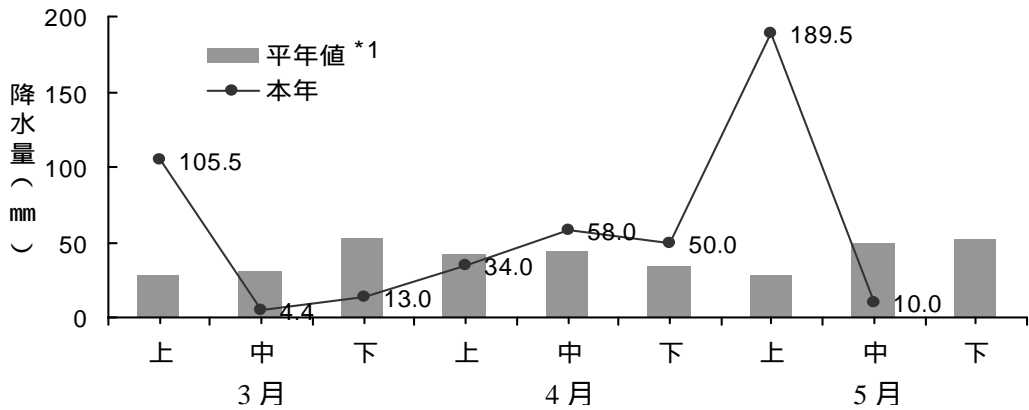
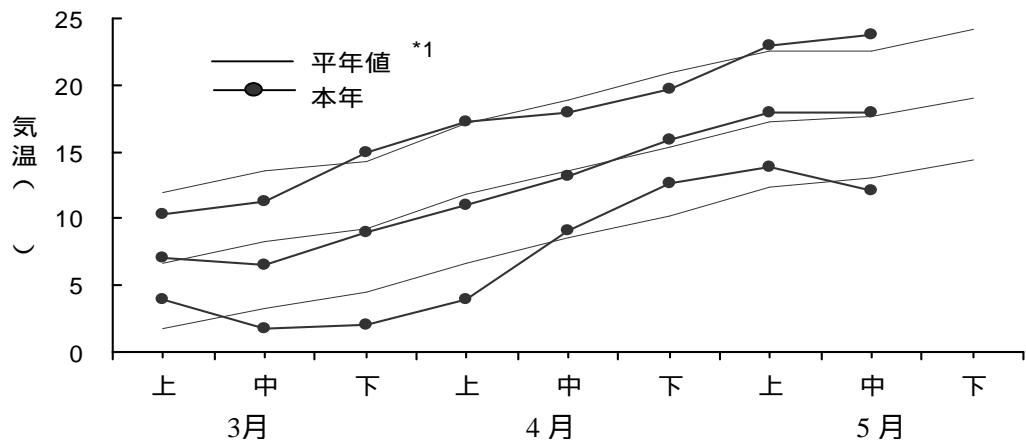
<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】平成24年5月25日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

確 率	要 素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気 温	40	30	30
	降 水 量	30	40	30
	日照時間	40	30	30

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値及び準平年値と本年の5月中旬までのデータを示した。(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1: 1981-2010の平均値, *2: 1987-2010の平均値

果樹カメムシ類の発生に注意しましょう！

5 月末時点でサクラの実に飛来する果樹カメムシ類の個体数が平年より多くなっています。6 月はこれらの樹から果樹園や野菜圃場へ飛来してくる恐れがあります。

ブドウやナシでは早目の袋がけや多目的防災網（目合 9 mm クロス入り）の展張が有効です！

エダマメ等も防虫ネットの設置を検討しましょう！

薬剤散布を行う場合は防除指針を参考に天敵に影響の少ない剤を選択しましょう！

ナシ疫病の発生が多くなっています！

巡回調査及び普及センター等の情報から、各地のナシ園で疫病の発生が平年に比べ多くなっていることが確認されています。本病は風雨や曇天が続くと発病が助長されるため、梅雨時の降雨で今後も発病が継続する恐れがあります。

発病を認めた場合、罹病部を切除し園外に持ち出した後、適切に処分しましょう。

本菌は好適条件で急速に発病、蔓延しますので、病勢がおさまっている場合でも、圃場の観察を丁寧に行い、適期防除に努めて下さい。

【病虫害発生予報】 （各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

果樹の病虫害

1. ナシの黒星病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)

2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

2. ナシのアブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では、被害新梢率は 29.2%とやや多い。(+)

2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

3. カキクダアザミウマ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では寄生葉率は 2.5% と少ない。(-)
- 2) 去年の発生は少であった。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 通常、越冬成虫が 5 月上旬頃の新葉展開期に越冬場所からカキ園に飛来し、新葉に寄生後、発生した次世代幼虫が幼果とへたの間に侵入し加害するため、新葉飛来後、葉が巻く前(産卵前)に防除する。
- 2) 防除指針に従い薬剤を散布する。

4. 果樹共通 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ)

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) フェロモントラップの誘殺数は 5 月第 5 半月は 1 トラップ当たり 54.3 個体であり、平年の 15.6 個体より多い。(+)
- 2) 予察灯への誘殺数は、チャバネアオカメムシは多く、クサギカメムシは平年並である。(+ , ±)
- 3) サクラへの飛来調査では、両種ともに 2007 年の調査以来、目撃数は最も多い。(+)
- 4) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 園内を見て回り早期に飛来状況を把握する。
- 2) 果樹園付近のスギ・ヒノキ・サクラ・クワなどの実には飛来してくる成虫の観察を行って、今後の発生量に注意する。
- 3) 早期の袋かけや多目的防災網(目合 9mm クロス入り)を園全体に展張し、果実への加害を予防する。
- 4) 飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

茶樹の病害虫

1. ハマキムシ類

予報内容

発生量 チャノホソガ: 並
 チャノコカクモンハマキ: やや少
 チャハマキ: 少

予報の根拠

- 1) フェロモントラップ調査によると、チャノホソガの誘殺数は並、チャノコカクモンハマキは並、チャハマキはやや少である。(±)
- 2) 平年は、チャノホソガは上旬～中旬に増加期に向かう。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では寄生葉率は 1.7% で少なかった。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

野菜の病害虫

1. トマト灰色かび病（施設・半促成）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも果実の発病は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、病果、病葉はただちに処分する。
- 2) 防除指針に従い防除する。

2. トマト葉かび病（施設・半促成）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、一部地域を除き発生はやや少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

3. キュウリうどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

4. キュウリ褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、施設栽培で発生はやや少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)
- 3) 栽培後期に多発する傾向がある。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

5. キュウリべと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

6. カブ・コマツナの白さび病（露地）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い早めに防除する。

7. ネギさび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(＋)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

8. ネギアブラムシ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、寄生株率は 1.4%と少ない。(－)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い薬剤を散布する。
- 2) ネギ類は薬剤が付着しにくいいため展着剤の加用など考慮する。

9. ネギアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、ネギにおける被害程度は 6.4 とやや少ない。(－)
- 2) 今後、増加期が継続する。(＋)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い薬剤を散布する。

10. コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、キャベツにおける 10 株当たり幼虫・蛹数は 0.1 頭と少ない。(－)
- 2) フェロモントラップへの誘殺数は少ない。(－)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(－)

防除上考慮すべき事項

- 1) 薬剤抵抗性の出現に注意して、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- 2) コマツナ・カブなどでは被覆栽培を行い、成虫の侵入を防ぐ。

1 1 . ヨトウガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、キャベツにおける卵・幼虫寄生株率は 1.1%と少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い薬剤を散布する。

1 2 . コナジラミ類 (施設)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、半促成トマトにおけるオンシツコナジラミは一部の施設を除き、寄生葉率は 1.9%と少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設周辺の雑草防除を徹底する。
- 2) 開口部に防虫ネット等を張って外からの成虫の侵入を防ぐ。
- 3) 今後は黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミ類の発生に注意する必要がある。

1 3 . 露地野菜類のアブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも各作物での発生は少ない。(-)
- 2) 今後、増加期が継続する。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を見たら作目ごと、防除指針に従い薬剤を散布する。

1 4 . ニジュウヤホシテントウ類 (テントウムシダマシ)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、ジャガイモにおける発生は 12.1%と少ない。(-)
- 2) 今後、増加期にあたる。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は低く、降水量は平年並と予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い薬剤を散布する。

インターネット上の防除所ホームページ

<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

病虫害の発生予報，発生状況，防除方法
などをお知らせしています。

5月10日：クワシロカイガラムシ第1世代の防除適期
について発表しています。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。

住宅地や公共施設周辺での農薬散布には十分な配
慮をしましょう！

近隣に影響の少ない天候や時間帯に散布するほか，
飛散しにくい農薬や散布ノズルを使用し，飛散防止
に努めましょう！

容器等に表示されている適用作物，適用病虫害，
希釈倍率，使用時期，総使用回数等を遵守しましょう！
農薬保管庫には必ず鍵をかけて盗難を防止しましょう！
必ず防除記録をつけましょう！